

刊夕 日五月八

常警每日新聞

定額一圓五角 郵費在內
廣告料五十字一圓 一行五十字
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社
電話 六二〇〇

東洋藝術への道

島田 忠 夫

(三)

こころみに茲に芭蕉の句「あけぼのや白魚しろき」と一寸「ゆく昔や鳥啼き」の如き魚の目はなみだの如き複雑なる美的情緒の吟味をば單に日本語に通ずるとする彼等西洋人に望むときは、同じくその理解や思ひ半に過ぐるものがあらう。しかし予は、それ等を單に相互の詩學的素養の下完全に據るのみでなく、社會的環境に據るものであると考へる。

(註二)野上豊一郎著『能研究と發見』(岩波書店刊)(註三)土居光知氏著『文學底説』版四二八頁(岩波書店刊)(註四)芥川龍之助全集第六卷七五九頁

ギュイヨーの『文學を漸次變形し、且多くの他の性質と共に強烈壯大、奇趣的な實在の要素を文學中に引き入れた影響の一は東洋及び聖書の影響である』(註五)とあるこの東洋は、何を指すものであらうか、若しそれ、單に東洋的藝術精神を指すものであると解す

れば、東洋人の傳統的なる美意識の自ら至高なる根源を言ふものであらうか。共感的情緒の伴はない美的情緒が殆んどなきが如く、共感的情緒の伴はぬ藝術創造はあり得ないのであらうか。かくて西洋畫に向つた東洋の畫人が、一定の製作的地位と探究美意識の完成さる頃から、東洋畫へ歸趨する

【朝】味噌汁 つまみ菜 小井 生玉子
【晝】うどん油揚げ入り 葱 付合せ 南瓜マツシ さいじんげんバタ ため
【晚】ハンバーグステーキ (豚引き肉 玉葱) 清汁 蕨 茗荷

る情勢も社會的環境に關する凡ゆる藝術的製作良心への歸納であることが思考される。たとへばこれらが小川芋錢畫伯の東洋畫に接する時、直に東洋藝術精神の眞髓に觸るゝ思ひがあるのは東洋人としての美意識の覺醒と、傳統的東洋精神の内面的な愉快であらねばならぬ。その墨畫の前に東洋人はあらゆる懷疑的感情をすて、美感に恍惚となり得るのである。晩年の岸田劉

生、森田恒友、萬鐵五郎の三畫伯が好んで墨畫の技法に親まれたるも自ら東洋人としての深き生命感にあつたであらう。萬鐵五郎畫伯の如き、古くはユニーザン會員としての清新を放つて洋畫の先驅を往きし感があつたのであるが、晩年ふかく東洋畫的精神に歸趨されたるものは深き興味と覺ゆる所である。蓋し、壯年の萬畫伯が鎌倉に參禪入室などしたる思想的探究の老成させるところにも據るであらうか。

常警の藝

灘の濱邊 恩地 淳一

灘の濱邊のひるさかり 畫顔のはな 咲いてるナ むしろ廣げて 雑魚ほせば むれて鷗が おりてくる 釣する子も 釣れぬのか 角力はじめる 灘の濱

内科 外科 一般

金成醫院

金成 忠義
平鎌田町(電三五八)

御位牌と 佛壇佛具

品よい 安い

橋本屋
平・新川町
電話一六三

石炭 コークス 豆炭

阿部石炭店

平驛前
電話三十七番

毎度御引立を戴いてゐる

藤寅では例年通り 冷たい美味しい飲物

アイスクリーム アツキアイス
ミルクセーキ ソーダアイス
ミツ豆 クリームソーダ

其他氷水各種
相初めました。是非夏の夕の御散歩歸りに御立寄り下さい。

平一丁目
出前 迅速

藤寅

電話一四一番

御新盆提灯

御形名提灯
特製スソ模様入レモ出来マス……
岐阜提灯・變形提灯
……各種取揃へました……

是非御用命は！格價低廉の
スガノヤ提灯店へ

平・四 電話九五番

御禮

生ビール發賣以來連夜豫定の樽數を賣盡し有難う存じます。

就ては御禮として 毎土曜日を
黒ビールデーとして御奉仕いたします。

平會館

電話 六二四

新設

産婦人科 醫學士 黒澤 廣
▽入院隨意△

安齊醫院

平町 田町
電話 四七五

耳鼻咽喉科専門

病室完備 自炊便有

山内醫院

醫學士 山内 亨 吉
平町(電話六九番)

我等の空を護れと

舉町一致の意氣込

非常時の備へ正に壯たり

昨夜聯合防護團の結團式

平町聯合防護團結團式は既報の如く四日午後七時から同町會議室に於て四家副團長の開會の辭に次いで長谷川書記のタクトで崇嚴な國歌合唱あり、酒井副團長(助役)の式辭後直に役員囑託に移り正副團長並に參事、各支部役員の名朗讀、辭令交附を行ひ左記來賓の大井川中佐 柴田平署長 井上消防組頭 藤田軍人聯合分會長

回宣言

我等は防護團使命の重大性に鑑み愈々其の團結を堅くすると共に常に團長の命令指示に従ひ團則を守り規約を尙ひ戮力協心防護の完璧を期し以つて平町三萬町民の期待に副はんことを期す
右宣言す

三方部防護團を

聯合の許に統管

今秋九月行はれる防空演習に關し、平町では既報の如く町内を三方部に分割して防護團係員を擧げ防空の萬全を期してゐるが尙之等三方部防護團を統管する平町聯合防護團の役員は左の如くである

- △團長 青沼平町長
- △副團長 酒井助役 四家紹介所長
- △參事(常任委員) 平警察署長 大日本電力平營業所長 平少年團長 石城在軍聯合分會長 町會副

- 議長 青年學校長 青年團長 驛長 女子青年團長 平在軍分會長 醫師團代表 藥劑師代表
- △庶務部部長 酒井助役(庶務係) 鈴木兵事主任(會計) 西野收入役(配給) 松本庶務主任(宣傳) 佐藤學務主任
- △企劃部部長 四家副團長(燈火管制) 眞野水道主任(警防) 松田統計主任(工作) 神長倉土木主任(衛生) 渡邊衛生主任

秋蠶出廻

愈近づく

四倉市場待機

石城郡下の秋蠶は本月二十二、三日頃からボツ／＼出廻り初めるので四倉市場は二十五日頃から取引を開始する模様であるが出廻り最盛は八月末から九月三日頃迄で取引豫想は昨年より一割減の二萬五六千貫に達すると

農事特別傳習

農試分場では本月廿一日農事特別傳習會を開き郡山本場の天良技手が優良農具選定並に使用法に就いて講習する

夏井更生懇談

本年度更生更生村に指定された夏井村では過般開いた委員の計畫案を示指する爲め目下村内を六部落に分けて部落懇談會を開いて趣意の徹底に努めてゐる

第二球技指導

平第二校は目下尋常科及び高等科の夏季球技指導を行つてゐるがコーチは尋常科鈴木高畑、米本尋常科渡邊の各

訓導で来る十日頃迄續ける

平町人事

回出生

- △新川町二七松崎純一郎氏 二女 圭子さん
- △五町目一中島富男此二女 壽子さん
- △南町一九加藤保氏長女 幸子さん
- △二町目一〇關内正一氏二男 諒一郎さん

回死亡

- △仲間町五四當時東京市瀧野川區西ヶ原町二二二佐藤二郎氏(二六)

平第一日歸り

臨海學校通信 (二)

(八月四日)にぐらしい雨模様の天氣に邪魔されて、二日も休んだ。今日も曇り空で「ダメ」かと思つてゐたが、友達たちが「行くんだ、行くんだ」と喜んでゐる。うれしくなつて停車場に急いで集つた。この曇り天氣で來ない人も二三人あつた。濱に近づくとともに海の空が明るくなる様な氣がする。「萬歳、々々」と叫ぶ人もある。雨にぬれた砂を踏む波の音に負けな

井坂醫院

平町 田町 電話五五九番

暑中御伺ひ

金成通

平町長 青沼鋒太郎

阿部政右衛門 平町搔樋小路 電話二二七番

高橋龜松 平白銀町 電話六三八番

最優最大日本生命保險平代理店 魚問屋 志賀盛榮 平町 四丁目 電話二一三番

福好工業合資會社 強口唯七郎 電話二八二番

石城郡内 各學校校長會

平藝妓屋組合

割烹末廣 平田町 電話四二二番

江名。豐間。小名行……乗合流線型セダン。豆タク……貸切

鈴木自動車部 平四町目 電話二一七番

旅館和泉屋 平四町目 電話二一七番



體操をする。細い僕等のからたにも力一ぱい張つて、手も足のびるやうだ。牛乳 朝の勉強を終つて濱へ出る。吉成先生が先頭で

しじみ取りに赤沼の方へ行つたが、しじみのしの字もなく、かに取りに代つてしまつた。大きかたに、小さかたに、手をばさまれて、顔をしかめてゐる人もある。佐藤看護婦さんは、嬉しいし、取れないし、はさまれるし、「キヤツ／＼」と大きはざだつた。歸りはお腹がペコ／＼になつて、なごさ傳ひに歸つた。第一日は生きのいゝさしみの御馳走、今日は、うなぎだ。見たゞげでもおいしさうだ。先生の御給仕で、御飯も自然とよけいに食へられる。午後

火薬になれ過ぎて 遂に己が身を粉碎

爆薬類のズツクの中に 引火用の電池をととも

(昨報)即死者一名並に重傷者三名を出した小名濱町榮町一町營小名濱市場建設敷地埋立工事場の火薬爆発事件に就いては平署から柴田署長、齊藤司法主任外係警官が現場に出張して調査中であつたが比較的軽傷の周作甚一に就き聴取した結果、即死した保管係の白坂が第二回の岩石爆破後使用残りの電氣雷管を装填したカートレットをズツク製の袋に入れて構現場の火薬貯蔵庫に保管せんとする際同じズツクに入れた引火用の電池に接觸して轟然爆破貯蔵庫内のカートレット四十

本に引火したもので白坂は常に胴巻に電池を入れて置いたものを火薬扱ひに馴れ過ぎた結果ズツクに混入、誤つて爆破したことが判明した、尙死傷者氏名左の如し、

- △即死 同所火薬保管係同町松ノ中居住東白河郡鮎川村大字赤坂字西野生白坂梅三(五)
- △重傷 人夫同町東町中島義雄北方原仙之助(四)
- △右胸骨、胸部顔面火傷 △人夫同町下明神町一七周作甚一(三)顔面胸部火傷 △人夫本町中島方加賀美力(八)左鼻腕火傷

墮胎の嫌疑から 司直の手が伸る

川前村字川木作農齋藤菊藏二女ハル子(三)は二三日前死産を分娩したが薬品を使用して墮胎を行つた形跡あり、けふ平検事局は俄かに活動を開始したがハルは數年前より同村阿部一郎(三)と噂さがあり妊娠するに至つたものであると

尼子稻荷祭禮 平町長橋町鎮座尼子稻荷神社宵

郡聯合會青年團の心身鍛鍊を目的とする中堅青年講習

郡青年の心身鍛鍊 矢吹農場で

雅樂神社祭式 平町

平町で講習會 磐城

△祭式福島縣神職會囑託

ボケツト用 列車時刻表

平署で發賣中

平署で發賣中

平署で發賣中

持參金付の 婿殿が平署へ

頑固な養父の説諭願ひ

縁の場合には二百圓を返すとの言葉を楯に持參金の返済方を要求した處養父の音があつたが右は赤井村大字赤井宇高萩居住安積郡富山村生同村川瀬炭礦雜役夫佐々木春松(三)で同人は十年前小野新町渡邊音次の娘マツ(三)の元を持參金二百圓を持つて入婿したが、その後養父と折合はず年に白米二俵を仕送りする約束で赤井村に別居しては見たもの、不景氣で仕送りが途絶えたの憤慨した養父がマツを唆かして去る三月中子供三人を残して連れ歸つたま、却した春松は「入婿の際離

裁判 一東

双葉郡熊町村大字小濱字驛二料理店田中清太郎方雇人青田壽時(三)同富岡町大字佛濱字釜田三五自動車運轉手瀧好夫(三)同字驛九ブツキ職竹本晋五郎(三)同字釜田六八荷馬車輓渡邊清(三)の四名は去月二十八日午後九時頃前記青田方で花

平職察紹介所報告

△出前持 十五、二十才迄給料五圓

△同 二十二才 迄給五圓

△外仕着

△泊 二十五才 迄給十圓

△西洋洗濯 三十一才 尋卒

△コック職工 二十六才 同

△コック 二十四才 同

△サイドカー運轉手 三十才 同

△十子守 二才 尋卒

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△牛乳配達 二十才 迄給五圓

△女中 廿五才迄 給三圓

△外テツツ

△職を求め方

△石版印刷工 二十五才 高卒

△藥品職工 二十一才 中

△職を求め方

△



謎る解 死解の謎

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

一八九 預つた火薬
三河屋幸三郎は上野がおちたのを見て、もうこれで江戸といふ土地も名實共に消えたものと思ひ死んだ江戸を弔ふために急中と記したすだれをさげて近所の人をあつめて通夜をして彰義隊の戦死者と滅びた江戸を弔ふたが、世には變つた人もあるものです。

さうける、必ず苦勞しなさんな、しかし女房や子供はこゝにおかぬ方がいゝ、おれのもの奇策はちとあぶないことだから、ことによるとおれも死にお前がたも死ぬであらうが主従は三

落に一度は死んで見な」といつたが江戸ッ子だけに幸三郎はさつぱりしてゐる、そこで女房と子供は小松川の親類にあづけてしまひ、今に官軍がしらべに来るか待つてゐた。

これは城廓、それを何んの理由もなく搜索をうけるは恥辱でございます」と兵「ひかへろ、風聞であるが彰義隊より軍用品を預かり居るとの事だ、これによつて家さがしをいたす」

幸「ハハアそれでお出でになりましたか、よろしくございませう、お心かまへにこの家の隅々までおたづね遊ばせ」

草鞋のまゝで押上り幸三郎を先に立てこれから搜索した、奉公人はこれを見てあの火薬が官軍の目については大變、あれだけは見逃してくれ、ば宜いと祈つてゐる。

幸三郎は三戸前の藏にある品物を示し、やがて火薬の箱のつみ重ねである藏に來て



幸「こゝは暗うございます、灯をつけませう」と蠟燭に火をともしてそれを持つて火薬の入つてゐる箱の上に腰をおろした。この人々に見やぶられたならば火薬に火をさしてこゝに來た官軍も共に黒燒きにするつもり、豪膽な人があるもの

幸「どうぞ品物を引き出して御覽くださいまし、私は上野にお出入りはいまして居りますが横濱にゐる外國人と取引致すが稼業すれば藏にあるものは外國品のみ、日本の物はございませんとすましてゐる、うちに

世の縁と聞いてゐる、この世の縁はつきるとも來世もまた主従そのまた先も主従して見れば今の世で死ねばとて残りをしいこともあるまい、先が永いからな

幸「それは御免を蒙ります、こんなことが三世續いてはたまりませぬ」

幸「心配するな、官軍が來たならば何とか策を用ゐて追ひ拂つてしまふ」

幸「何んな策を用ゐます」

幸「それは今こゝでいふことは出來ねえ、臨機應變、ひかうの出やうによつて奇策を用ゐるがお前がたには迷惑はかけないよ、事が面倒になればおれが一人

及び居るがそれに相違ないか」

幸「左様にございませう、それがどういふことになりましたな」

幸「しばらくお待ち下さいこの通り見苦しき住居ではございませぬ、うちに

幸「こゝは暗うございます、灯をつけませう」と蠟燭に火をともしてそれを持つて火薬の入つてゐる箱の上に腰をおろした。この人々に見やぶられたならば火薬に火をさしてこゝに來た官軍も共に黒燒きにするつもり、豪膽な人があるもの

幸「こゝは暗うございます、灯をつけませう」と蠟燭に火をともしてそれを持つて火薬の入つてゐる箱の上に腰をおろした。この人々に見やぶられたならば火薬に火をさしてこゝに來た官軍も共に黒燒きにするつもり、豪膽な人があるもの

花柳病科外科
木村外科醫院
平町六丁目 橋際 電話三〇九番

兵士は幸三郎の腰をおろしてゐる箱に目をつけた。

計時
高橋時計店
平町二丁目
・小役員募集細面談。

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦派出します

親切 料金は極めて低廉で
町裏 妊産婦の御家庭 お留守 居番
御病人の付添 炊事や雜用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話二三番)

上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

御進物に
鯉節
貝焼 鯉鹽から

魚問屋
榮盛賀志
番三一二話電 目丁四平